

木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る ワークショップ協議結果について

平成27年7月21日
第2回木津川市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会



木津川市

ワークショップ協議結果について

①ワークショップの目的

現在、まちづくりや事業で活躍されているみなさまから、市や地域の課題及びこれまでと今後のまちづくりに対しての意見・意向を伺い、市の実情に合った戦略にすることを目的とする。

あわせて、参加者間の交流により、新たな取組み（ビジネスモデル）の提案を目的とする。

②主な意見取りまとめ

分野	意見
市の現況・課題	<ul style="list-style-type: none">○京都・大阪・奈良に近いポテンシャルを活かせていない○観光関連のPR、行政情報の市内発信が課題○観光や市民活動の「面白さ」が伝わっていない○未活用の空き家や農地が残っている○行政がおこなう取組みは、面白くない○木津川ブランドの確立が必要
拠点づくり	<ul style="list-style-type: none">○イベントをする場所がない<ul style="list-style-type: none">・若者たちが参加できる環境づくりが必要・木津川を芝生公園化してはどうか○年中行事を受け継いでいく人材を創出・支援が大切○当尾地域を活性化する必要がある<ul style="list-style-type: none">・当尾小学校を地元野菜販売所等に活用してはどうか○市外からの観光客と市内の各地を結ぶ拠点機能が不足○地域活動拠点（若者が集える場所、子育て活動の拠点等）が必要○空き家を活用したカフェなどの整備が必要○地場産業のPRや特産品の販売拠点（道の駅など）が必要<ul style="list-style-type: none">・ただし、継続運営には、運営主体が課題となる

ワークショップ協議結果について

分野	意見
観光・PR	<ul style="list-style-type: none"> ○女性を呼べば、多くの人が訪れるのではないかと ・女性の口コミの大切さ ○豊富な観光資源の間の連携とPRが不足している・わかりにくい ○観光用途にもコミュニティバスを活用してはどうか ○山城国一揆の歴史ストーリーを活用する ○キャッチコピー（気付いたか？）を付ける ○まちづくりのプロを呼んではどうか
子育て	<ul style="list-style-type: none"> ○情報を入手したいが、情報が充実していない ○市の情報にまとまりがない ○SNSを利用し、情報発信の充実をするべき
農業	<ul style="list-style-type: none"> ○市外の所有者による荒廃農地が多い ○農業を拡大したい <ul style="list-style-type: none"> ・助成金等の制限が厳しい ○農産物の提供はできるが、販売場所がない <ul style="list-style-type: none"> ・集荷場機能がある拠点があれば良い ○健康を売りにしたスイーツの開発 ○農産物を転入者にプレゼントして地産地消をPR
地場産業	<ul style="list-style-type: none"> ○壁紙について、大半はビニール製だが、ふすま紙が中国で人気 <ul style="list-style-type: none"> ・全国の8割シェア（ふすま紙）
学研企業	<ul style="list-style-type: none"> ○外国からの研究員などが宿泊する場所が無い <ul style="list-style-type: none"> ・大阪で宿泊いただいている ○木津川市の土産がない ○昼食できる店舗も少ない

ワークショップ協議結果について

分 野	意 見
婚活	○花嫁行列を復活させたい
空き家	○地域によっては、空き家が増加している ・高齢者が買い物に困っている ○カフェなどに利用してはどうか ・耐震などの課題がある
雇用創出	○事業の拡大について ・土地がない ○企業の進出が容易となるよう都市計画や規制・誘導の仕組みの見直しが必要 ○荒廃農地等の活用を推進するとともに、特産品の多品目化が必要
公共交通	○交通インフラの整備が必要
情報発信	○市内でも知らない場所・地域資源がある ・転入者等に市政や取組み事業の情報提供システム構築 ○災害が少ないまちとしてのPRをしては ・国宝が多い ○地域活動にかかるプロセス（確認→予約→活動）のワンストップ化 ○HP等を活用し、民間も含めた分野別情報のわかりやすい一元化を
推進体制	○市民は、初めから行政に頼らず、自力で頑張ることが重要 ○行政は、取組みがしやすい土壌を作り、活動を支援することが重要 ○どのような工夫をすれば実現できるかを考えることが重要